

令和6年度第2回習志野市発達支援サポートネットワーク会議 議事記録

1. 開催日時 令和6年11月18日(月) 午後2時30分～4時00分

2. 開催場所 市庁舎グランドフロア 会議室 A

3. 出席者

【会 長】 こども部(こども保育課) 主査 布施 恵子

【副会長】 指導課 指導主事 関 陽介

【委 員】 健康支援課 係長 田嶋 越子、秋津保育所 主任 坪内 美穂子

東習志野こども園 園長 石川 由美、藤崎幼稚園 教頭 齋藤 麻子

子育て支援課 主査補 江原 朋枝、こども部(児童育成課) 主幹 上野 智子、

学校教育部(教育総務課) 主幹 伊坂 尚子、指導課 指導主事(係長) 富田 政芳

あじさい療育支援センター 主査 秋山 菜穂子

ひまわり発達相談センター 主査 清田 直子

欠席3人

【事務局】 ひまわり発達相談センター

所長 内村 幸輔、主任指導員 橋詰 信一郎、主査補 田中 真由美、主任技師 竹内 渉

主任主事 深澤 佑子、主事補 山岡 恒佑、三木 のりこ

4. 議題

(1) 令和6年度 発達に支援が必要な子どもへの理解を深めていくための各課の取り組みについて
(市民協働こども発達支援推進協議会での委員の意見を踏まえて)

(2) その他

5. 会議資料

資料1 習志野市こども発達支援施策一覧表(案)

資料2 令和6年度第1回発達支援サポートネットワーク会議 議事記録

資料3 令和6年度第1回習志野市市民協働こども発達支援推進協議会 議事録

資料4 発達支援施策推進に向けた中期計画

資料5 令和6年度発達支援研修公開講座報告書

6. 議事内容

第1回発達支援サポートネットワーク会議終了後の経過

①上位会議である第1回市民協働こども発達支援推進協議会にて、各課の取り組みを関係機関別、項目別に記載し資料として提示。

(協議会委員からの意見等)

・多くの関係機関が連携し、具体的な取り組みがされていることを理解した。

- ・各種研修について、支援者向けの研修が有効に働いている事例の紹介。
- ・障がいの理解について、学校で子どもたちに理解を求めた事例や、地域の障がい理解のこと等が話題に上った。

②ソーシャルインクルージョンの推進体制の構築を目指し、発達支援施策の協議を効果的に進めるために、「発達支援施策推進に向けた中期計画」を作成。

令和6年度：各課の取り組み状況調査を行い、発達支援施策一覧表を作成。

令和7年度：作成した一覧表をもとに協議を実施、課題を抽出…問題を解決するための方針・目標を設定し、取り組むべき内容を確認。

令和8年度以降：具体的に取り組むべき分野や、充実を必要とする課題に対して協議を行い、施策の提案や推進につなげ、事業実施後の効果についても把握。新たに取り組むべき課題があれば、適宜着手していく。

今回の計画では、3ヵ年計画と位置付けているが、現状把握と課題抽出ができた時点で順次課題に着手することができれば、ペースを早めて対応できると考えている。

(協議会委員意見)

令和7年度から、子ども・子育て支援事業計画が、「(仮称)こども計画」として引き継がれるため、次期計画と整合性が取れた形で作成してもらいたい。

議題(1) 令和6年度 発達に支援が必要な子どもへの理解を深めていくための各課の取り組みについて
(市民協働こども発達支援推進協議会での委員の意見を踏まえて)

習志野市こども発達支援施策一覧表(案)を基に、①具体的な取り組み内容②他機関との連携状況③発達支援施策に結びつけられる取り組みがあるかについて協議

①具体的な取り組み内容※頭番号は子ども・子育て支援事業計画における事業番号

【健康支援課 田嶋委員】

45 子ども全員に対する集団健診(歯科・問診)・個別健診(医師による診察)を実施。9割以上の児が受診しており、保護者相談もできる機会としている。

73 必要な家庭には訪問または所内相談を行うことで、情報提供や専門的な指導について個別で対応している。

43 小児科医による発達相談を保健会館にて実施(年6回)。また、心理職に相談できる幼児相談(毎月)を設けている。

40 早期発見、支援のため、相談支援体制の充実を図っている。

52 情報提供窓口として健診会場、保健会館にて啓発を実施。

【障がい福祉課 小森委員 代読】

81・82 聞き取り調査等で対象児童の状況把握を行い、必要に応じて福祉サービス事業所(障害児相談支援、児童発達支援、放課後等デイサービス等の福祉サービスや、日中一時支援等の地域生活支援事業の各事業所)との連絡を取る等、適切なサービスの利用へつなげた。

今年度初めて令和7年度就学予定の児童の保護者を対象として、「放課後等デイサービスを知ろう会」を開催。放課後等デイサービス事業所職員の協力の下、放課後等デイサービスのサービス申請・受給者証発行までの流れや放課後等デイサービス事業所を選ぶポイントについて説明した。参加した保護者からの質問や感想を受けて、需要はあると感じたため、来年度以降の開催についても検討していきたい。

88 基幹相談支援センター等と連携し、福祉サービスや社会資源の利用援助や情報提供、権利擁護の援助等の総合的な相談を実施。障がいのある方に対する相談支援体制の中核的な役割を担う基幹相談支援センターが、市内相談支援事業所の後方支援や研修、指導、助言を行った。

30 ヘルプマークやヘルプカードの普及や認知度を上げるため、引き続き市ホームページや広報習志野等を活用し周知を行う。また、きらっといっぽの会と「あたたかく見守ってください」のチラシを作成。指導課を通し、市内公立中学校へ啓発チラシを配布し、授業等で取り上げてもらうよう依頼。

80・83～86 表題どおりの支援を行っている。

【主任会(秋津保育所)坪内委員】

106・107 子ども同士、親同士の交流、育児情報の提供の場として、幼稚園等の開放を実施しているが、秋津保育所においては参加者がいない状況。

【園長会(東習志野こども園)石川委員】

106・107 児が好きな遊びをしているところや一斉活動しているところ、給食やおやつを食べているところ等、子どもが園で過ごしている姿を保護者に知ってもらうためにいろいろな形での参観にしている。加えて、保護者参加型と一緒に1日保育士のようにしてもらい、発達に合った遊びの提供を見てもらっている。こども園では、こどもセンターと一時保育も行っており、地域の子育て支援を担っている。月2回コドモン(アプリ)を利用し写真付きで園での様子を発信しており、その中で絵本の紹介もするようにした。

【教頭会(藤崎幼稚園)齋藤委員】

106・107 子育て相談、交流ができる場として、子育てふれあいひろばを開催(年6回)。こども保育課職員、母子保健推進員、民生委員、保健師等の職種との相談の場を作っている。更に、園独自の開放として、ふじっこ広場を開催(年10回)。近くに公園がなく、遊ぶ場所や同世代の子がいない方が通っている。また、ボランティアがおはなし会を開催し、保護者と触れ合える場も作っている。

【子育て支援課 江原委員】

73 相談員は心理・福祉・医療で構成されているため、訪問時にどの職種の組み合わせが良いか健康支援課とも連携しながら検討し、訪問を実施している。

40 適切な支援機関につなぐため、関係機関(所属)と連携しながら対応している。

51・75 18歳未満の児に対する養育と一緒に考えて対応している。

52 市ホームページにて相談窓口の周知を行っている。

54 子育てコンシェルジュをこどもセンター、きらっこルーム及びこども部相談窓口に配置することで切れ目のない相談支援を行っている。また、コンシェルジュから健康支援課や子育て支援課に情報がフィードバックされ対応している。

104 らいふあっぷカレッジ:ハイティーンズカフェの事業所との連携や学習支援事業へつなげることがあるため、関係課と連携している。

108 こどもセンターなどで保護者同士が交流できるような場所を提供。

98 遊びの場として、きらっこルーム(土日利用可)、こどもセンター(土利用可)を提供。

【児童育成課 上野委員】

3 放課後児童会において、集団生活が難しい子に加配職員を配置(子ども3人に対して大人1人が対応)。

【あじさい療育支援センター 秋山委員】

40 他機関からあじさい療育支援センターにつなげたいと連絡が来るとまずは見学してもらい、センターを知ってもらうところから始めているが、見学後にすぐにつながらないこともある。その際は、元の関係機関へフィードバックし、支援が途切れないようにしている。

77 在籍している(していた)子どもの所属園へ出向く、所属園の保育者が来て意見交換等を行い、外部から講師を招き、研修や所内での事例検討会の実施などの支援を行う。

【ひまわり発達相談センター 清田委員】

40 ひまわり発達相談センターへの相談件数の増加により、初回相談においてお待ちいただく状況が発生していたため、教育委員会と協議の上、令和5年4月からセンターでは主に就学前児童とその保護者を対象とし、総合教育センターにおいては小・中学生とその保護者を対象とする相談先の変更を実施した。その結果、電話相談から1か月程度で初回相談につながるできるよう、改善が図られている。

52 センターの新しいリーフレットを作成。今年度は各施設、次年度は所属園(所)を通じて一人ひとりに配布予定。

75(ライフサポートファイル) 令和6年度はライフサポートファイルのチラシ及びスターターセットを保育所・幼稚園・こども園、小・中学校、関係各課に配布。

81・82 センターを利用している保護者に対して、就学前から利用できる福祉サービス、主に児童発達支援事業所の探し方や手続きの方法についてまとめた小冊子を作成し必要に応じて配布。また、館内に児童発達支援事業所のチラシやパンフレットが閲覧できる情報コーナーを設け、利用の促進を図っている。

75(乳幼児個別支援計画) 乳幼児個別支援計画の作成数の増加が見られている。また、5歳児(年長児)においては、乳幼児期における支援が就学後に確実につながるよう乳幼児個別支援計画を基に就学前施設と小学校との間で引継ぎを実施している。

75(巡回相談) 対応件数は、例年大きな増減はなく実施。民間保育施設の増加により巡回相談を希望する施設が増えてきたことなどから、公立保育施設よりも民間保育施設へ出向く割合を増やす調整を行った。最近の傾向としては、共働き家庭の増加で時間の都合がつかない、自宅からセンターまで行くことが難しいなどの理由から、巡回相談を利用し保護者相談も併せて希望するケースが増えつつある。

30 広報習志野に「子どもと家族をあたたく見守るための応援メッセージ」の掲載を行い、発達に支援が必要な子どもへの理解啓発に努めた。今年度は広報習志野に「ひまわり〇〇(職員)のひとりごと」を全2回掲載予定。また、広報の内容に解説を加えたものをホームページへ掲載し、さらにチラシを作成し配布する予定。

75(講師派遣型研修・発達支援基礎研修・公開講座)

講師派遣型研修:市内の幼稚園、保育所(園)、こども園等から研修の依頼を受け、センターの職員が講師として施設に赴き、成長、発達に心配のある子どもへの支援のあり方や基本的な知識の習得を目的として研修を実施。

発達支援基礎研修:市内幼稚園・保育所(園)・こども園、障がい福祉サービス事業所等の職員を対象として、成長、発達に心配のある子どもを支援するにあたり、基本的な知識の習得や子どもに対する関わり方等を学ぶ研修を実施。

公開講座:発達支援や子どもとの向き合い方等に係わるテーマを主とし、発達障がい等の理解・啓発を広げていくことを目的とした研修を実施(市民も参加可能)。

【指導課 富田委員】

6 総合教育センターと連携して研修を実施し、発達支援に関する知識の向上を図っている。

71 通常学級を含む発達に課題を抱える子どもへの対応を行っている。

【指導課 関副会長】※総合教育センターに関する意見を含む

75(個別支援計画) 各校に来年度入学するリストを基に、確実に内容を引き継いでもらえるよう働きかけている。

9 電話等いろいろな形で相談を受けている。今年度は諸事情により総合教育センターへの相談は指導課で対応している。

70 フレンドあいあい:不登校に関する子どもの支援を実施。

75(就学説明会の開催) 総合教育センターと連携し、年中時に1回開催し保護者の意識や興味を高めている。年長時にも2回実施し、計3回実施予定。

【こども保育課 布施会長】

72 保育指導委員会(年4回)を実施。

75(学級運営支援事業) 臨床心理士3名で28園を回る。また、その心理士がそれぞれ講師となり、研修を実施している。最近の傾向としては、私立施設が発達に必要な児を受け入れているが、児への対応に苦慮している。今後私立園への支援を考えている。今年度途中より、ひまわり発達相談センターから情報提供(巡回相談の記録)を受け、事業に活かしている。

②他機関との連携状況

【健康支援課 田嶋委員】

- ・3歳児健診にひまわり発達相談センターから言語聴覚士を派遣。
- ・医師による個別健診等においては医師会と連携している。
- ・必要な方は、ひまわり発達相談センターへつないでいる。
- ・ケースによっては子育て支援課と同行し訪問に行く場合もある。

【障がい福祉課 小森委員 代読】

- ・情報提供：ひまわり発達相談センター、健康支援課、子育て支援課、指導課等と連携を図り必要な福祉サービスの利用につなげている。その他、民間の療育機関（主に児童発達支援）の利用を希望する保護者からの相談を受け、幼稚園、保育園などと情報共有を図って、必要に応じて福祉サービスの利用につなげた。
- ・指導課、きらっといっぽの会等との連携を図っている。

【所長会（本大久保第二保育所）前田委員 代読】

- ・乳児施設であることから、2学期の保育参観で、保護者から児の発達について相談を受けることがある。その際、必要に応じてセンターの利用を勧めたり、巡回相談につなげたりしている。

【主任会（秋津保育所）坪内委員】

- ・あじさい療育支援センターの摂食研修やひまわり発達相談センターの公開講座で学んだことを栄養士が食育指導に活かしたり、担任が学級運営に活かしたりしている。

【園長会（東習志野こども園）石川委員】

- ・子育て支援課、健康支援課、ひまわり発達相談センターとは今まで通り連携している。最近は、民間療育の事業所に集団生活の中での支援児の様子を見てもらう機会がかなり増えた。

【教頭会（藤崎幼稚園）齋藤委員】

- ・巡回相談（ひまわり発達相談センター）や学級運営事業（こども保育課）の利用。

【子育て支援課 江原委員】

- ・小中学生については、指導課、総合教育センターや障がい福祉課等支援（連携）機関を考えながら対応している。

【児童育成課 上野委員】

- ・放課後児童会：子どもの就学前の状況を確認するため、幼稚園、保育所、こども園と連携している。
- ・放課後等デイサービスを利用している子どもが増えている印象。児童会を中抜けして利用する子もいるため、放課後等デイサービスと連携を取るようにしている。

【あじさい療育支援センター 秋山委員】

- ・保育園等や事業者の併用児が多いため、所属先との連携。それぞれの生活の場における助言や意見交換を行っている。
- ・摂食研修に市内保育園等の保育者が参加。相談があれば、出向いて相談や助言も行い、支援児の様子を確認している。
- ・座位保持椅子の貸し出し
- ・療育体験の実施。今年度は6か所20名が参加（看護師2名栄養士1名）。

【ひまわり発達相談センター 清田委員】

- ・健康支援課からつなぐケースが多くあり、発育・発達などの課題を早期に発見し適切な支援の実施に努めている。
- ・障がい福祉課との連携を図り、社会資源の情報収集に力を入れていく。

【指導課 関副会長】

- ・総合教育センターやケースによってはこども部、健康福祉部とも連携することがある。

【こども保育課 布施会長】

・保護者のニーズと子どもの状況等多様なケースが出ている。その子どもに対しどのように対応をしていくのか、指導課と情報交換している。

③発達支援施策に結びつけられる取り組みがあるか

【健康支援課 田嶋委員】

・来年度から、4 歳児クラスの学年に対し、5 歳児健診を実施予定。就学前に発達に課題のある児へのスクリーニングを行うツールが増える予定。

【障がい福祉課 小森委員 代読】

・「放課後等デイサービスを知ろう会」を実施。来年度も開催を検討している。公的機関の連携のみならず事業者連携もしていくことで支援の充実を図る。

【主任会(秋津保育所)坪内委員】

・巡回相談(ひまわり発達相談センター)や学級運営支援事業(こども保育課)を利用し、支援を要する子どものために活かしている。

【園長会(東習志野こども園)石川委員】

・今後、「こども誰でも通園制度」等もあるため、地域の子どもに対し支援できれば良いと思う。

【教頭会(藤崎幼稚園)齋藤委員】

・発達支援、特別支援教育へのハードルが高く、マイナス面を考えてしまう保護者が多い。ネガティブな面だけでなく、ハードルが低くなるようなやり方がないかと思う。

【子育て支援課 江原委員】

・R5 年度から精神科医師による医師相談を開始(2 か月 1 回)。医師の見立てで、医療機関を受診した方がよいか等のアドバイスをいただくこともある。

【児童育成課 上野委員】

・支援員、補助職員に関わる研修の実施(リーダー育成・児童の自己肯定感につなげる・放課後児童会における特別支援教育・発達と問題行動への対応)。

【あじさい療育支援センター 秋山委員】

・他機関連携の継続

【ひまわり発達相談センター 清田委員】

・5歳児健康診査後のフォローアップ体制の一端を担うため、就学直前ではなく就学 1 年前の早期から支援できる体制により、必要な就学準備をした上で親子が安心して就学が迎えられるよう対応していく必要がある。

・ライフサポートファイルについて、ホームページに Word 形式で様式を掲載することについて検討中。市民の方が活用できるよう工夫していきたい。

・「障がい児福祉サービス事業所合同説明会」のような場があると多くの市民が関心を寄せ、福祉サービスの利用促進につながるのではないかと考えている。

・教育委員会と連携し、「乳幼児個別支援計画」が「個別の教育支援計画」に引き継がれた後、どのように活用されているのか共有したい。

・巡回相談事業と学級運営事業はアウトリーチ型事業として似通っているため、それぞれの事業の整理を行うことが必要であると考えている。

【指導課 関副会長】

・研修の内容や対象者を広げていくことで、よりよい発達支援につなげていきたい。

【こども保育課 布施会長】

・子どもと保護者の多様なニーズに対する対応について、研修も含めて今後考えていきたい。

・放課後等デイサービス等の民間事業所との連携を図る。

質疑応答

【児童育成課 上野委員】

・97 は、放課後子供教室を指していると思われる。放課後子供教室は、加配をつけているわけではない。放課後子供教室は社会教育課が担当となる。すべての子を対象とはしているが、登録制で、利用する子が毎回同じではない。社会教育課に確認することは必要だが、一覧表に載せるほどではないのではないのか。

→事務局:事務局としても迷った。一旦記載している。本会議において、必要か否か確認したい。

【子育て支援課 江原委員】

・104 のこども食堂運営事業について、業者との連携はあるが、担当はこども政策課になる。

→事務局:承知した。子育て支援課は、民間事業者との連携について、意見を発表いただきたい。

(意見)

【園長会(東習志野こども園)石川委員】

早く関係機関に結び付けたい気持ちはあるが、ひとりっ子や手がかからない児だと親は困り感がない場合が多い。3歳児健診などで何も問題ないとされると、保育者としては関係機関へつなげられず歯痒さを感じる。5歳児になって困り感が出る場合があるため、どのように対応すればいいか困っている。

→健康支援課:健診に来て、保護者の相談意欲がないと難しい。事前に園から情報をもらい、相談につなげたいと思っていても、難しい場合もある。5歳児健診も始まるため、ぜひ園と連携を行い、必要な支援につながるようにしたい。園の思いは一緒である。

事務局より

31 防災力の向上が計画にある。発達に課題のある子に対し、所属園での防災訓練等での配慮等はあるか。

【あじさい療育支援センター 秋山委員】

幼稚園等でも防災・防犯対策計画に基づいて取り組んでいると思う。継続して通っている児は慣れてきているが、初めての児はサイレンやマイクの音でパニックになってしまうため、まずは音や、防災頭巾をかぶることに慣れてもらえるようにしている。また、非常食の備蓄を年1、2回程度給食で提供している。

(2)決定事項

・次年度は本日検討した一覧表をもとにさらに協議を進め、課題を抽出していく。

(3)その他

・今後の会議予定について、本日で今年度のサポートネットワーク会議は終了。令和7年度は5月頃を予定。上部会議である市民協働こども発達支援推進協議会は令和7年1月27日に実施する。

・本日提示した習志野市こども発達支援施策一覧表について、詳細な内容や実績などの聞き取りを行う際はご協力いただきたい。